

聖書:ルカの福音書6章39~49節

説教:良い人、悪い人

はじめに

だれでも良い人になることを願います。自ら進んで悪い人になろうとする人はまずいません。法律を守り、嘘をつかず、社会の常識に従って正しく生きる。もっと積極的な言い方をすれば、隣の人と仲良くし、困っている人がいれば御世話をし、社会に役立つ人間となって、できれば世の人の模範となる生き方をする。良い人とはそんなイメージでしょう。

45節に「良い人」、「悪い人」とあって、神も私たちに良いクリスチャンになることを望んでいることは明かで、私たちはいつもどうしたら良いクリスチャンになれるのかとどこかで考えていると思います。いったいどうしたらよいのか。ともに考えてまいります。

1 良い人とは

1) 心の倉

そこでまず45節を読みます。「良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。人の口は、心に満ちていることを話すからです。」

いばらからいちじくが採れないように、野ばらからぶどうの実が出ないように、悪い倉からは良い物が出てこない。良い物は良い倉からしか出て来ない。それはわかるとして、では良い倉とか悪い倉とは何を指すのでしょうか。

「人の口は、心に満ちていることを話すからです。」とありますから、良い倉とか悪い倉とは、人の心のことを指しているようです。ところが心は外から見えないという性質があるので、私たちには実に都合が良い。心中のことを隠して、良い人になったふりができる。それでイエスは警告します。どんなに良い人のふりをしても、その人の口から出ることばで、その人の心が良い倉なのか、悪い倉なのか、すぐに見破ることができる。隠すことができないというのですから、これはある人にとって恐ろしいことかもしれません。

2) 土台を据える

良い倉でも悪い倉でも、どちらでも大して変わらないのなら、これ以上考える必要はありません。ところがそうではない。大きな違いがある。イエスは、そのことを家を建てるときの土台

のたとえで説明しています。しっかりとしたかたい岩の上に建てた建物はどんな災害が起きても大丈夫だけれど、土台がなければなにかあるとすぐに倒れてしまう。これはもう説明の必要がありません。大きなマンションは、杭を打って岩盤に届くような土台を造らなければなりません。ところが後になってから、杭が岩盤に届いていないことが分かって大騒ぎになったというニュースがありました。信仰もそれと同じです。いますぐ何か起きるわけではないかもしれないが、いざというときに岩の上に土台を据えていたか、いなかったか、まったく違う結果となってしまいます。土台を据えることができた人は良い人であり、良い倉を持つ人になれる。そのようにつながります。

では、岩の上に土台を据えるということはどういうことか。それが次の疑問になります。

2 目の中にある梁

1) 盲人

そこで39節を読みます。「盲人が盲人を案内できるでしょうか。二人とも穴に落ち込まないでしょうか。」あいだを飛ばして、41, 42節。「あなたは、兄弟の目にあるちりは見えるのに、自分自身の目にある梁には、なぜ気がつかないのですか。あなた自身、自分の目にある梁が見えていないのに、兄弟に対して『兄弟、あなたの目のちりを取り除かせてください』と、どうして言えるのですか。偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、兄弟の目のちりがはっきり見えるようになって、取り除くことができます。」

この二つの箇所には共通点があって、どちらも「目」に関係している。39節は二人とも目が見えません。盲人が盲人を案内できないことは誰でも分かります。

2) 見えているつもりだが

では二つ目のたとえにある、目の中のちりとか梁とはなんのことか。目の中にちりが入って困ってしまうことが時々あります。しかし目の中に梁が入るはずはなく、これを聞いたら誰もが笑ってしまいます。

イエスは何を言いたいのか。中心はこれです。「偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、兄弟の目のちりがはっきり見えるようになって、取り除くことができます。」

もしも目の中に梁があったら、だれだって真っ先にこの梁を取らなければ大変だとあわてるでしょう。まずその梁を取り除いてから、次に兄弟の目の中のちりを取ってあげなさい。

ここに二つのポイントがあります。一つ目。私たちの目の中には梁がある。「いや、そんなものありませ」と言いたくなるかもしれませんが、イエスの目にはそう見えている。はりとは何か、そのことは後で見ることにして、その前に二つ目のポイントについて触れておきます。物事には順番があって、まず自分の目の中の梁を取り除いて、次に兄弟の目の中のちりを取り除く。というのは、目の中に梁があったら何も見えず、盲人とおなじ。盲人が盲人を案内できるわけがない。ところが多くの人はそのことに気がつかず、私は見えていると思い込んで隣の人の御世話をしたつもりにだったのに、二人とも穴に落ち込んだ。みなさんも経験があるのではないですか。

まとめると、土台を据える人は良い人であり、良い倉を持っている。その人は目の中の梁を取り除く人でもある。こうつながってきます。

3 わたしのことばを行う人

1) 見えていないという自覚

では目の中の梁を除くにはどうしたらよいか。二つのステップを踏みます。ここでは盲人の話が最初にあって、それから目の中の梁の話になっています。この順番が大切です。目の中の梁を取り除くには、まず自分が盲人であるという自覚がなければなりません。しかしどうでしょうか。「あなたは見えていのですよ」と言われて、「はいそうです」と言えるか。つい反発したくなる。「いいえ、私はよく見えています。変なことを言わないでください。」

でも本当に見えているのでしょうか。すべてが順調に進んでいるときは、自分は見えているという自信がある。しかし人生、いつも順調ではない。突然、思いがけないことが起きて、こんなはずではなかったということが起こる。どんなにがんばっても乗り越えられない壁におつかって、途方に暮れるときがある。そんなとき皆さんがこう言う。「人生真っ暗です。」はっきり見えていたはずなのに、光を失ってなにも見えなくなる。道を失って途方に暮れてしまう。そんなところを通った方はよくわかるはずですよ。本当につらい。

しかしイエスにしてみれば、実はチャンスということになる。どうしてか。「お先真っ暗です」と言って、自分は何も見えない盲人であることを告白

したからです。自分が、見えないものであると自覚した。これが一つ目のステップです。

2) 自分の目の中に梁がある

二つ目のステップ。では、どうして見えなくなり、盲人となってしまったのか、その原因はなにか、となる。目が見えなくなったのは、イエスの言い方に倣えば、目の中に梁があるから。しかし梁と言っても何のことかピンときません。でもよく読めば、目の中の梁とは心にある悪い倉のことを指していて、悪い倉からは悪いことばかり出て来ない。

こう言うと反論があるでしょう。「私は、自分が語ることばにはよく注意して悪いことばは言わないようにしています。」本当でしょうか。私は大丈夫と思っている、実は既に悪いことばを語っているのです。先ほども言いました。人生すべてがうまく行っているとき、こんなふう自分に語りかけたことはなかったでしょうか。「私は大丈夫。誰の助けもいりません。すべてがはっきり見えています。」びっくりするかもしれませんが、イエスはこのことばこそが悪いことばだと言っているのです。どうしてか。「私は大丈夫、私は正なんでもできる」と思っている限り、人は自分のことを顧みないからです。

でもそれが反対に、「私は間違っていた、私は何もできない人間だった」と気がついたならどうでしょう。どうしてこうなってしまったのか、考えざるを得なくなるでしょう。自分を振り返ることになる。これがポイントです。自分の目に梁があることにだんだん気がついてくる。最初は「何もありません、見えています」と思っていて、自信があった。けれどもそんな自信が何の役にも立たない。自信に満ちていたときは、知らないうちに人を見下すようになっていて、弱い人がいると軽蔑するような視線で見えていた。以前なら、自分はたかさんの友だちがいると自慢していたけれど、失敗してどん底に落ちてしまうと、みな去って行ってだれも寄りつかなくなる。そこで初めて気がつく。あ のとき自分のところへ集まってきた人たちは、自分が持っている富や名声が目当てだったのだ。そのことにも気がつかずに、高慢になっていた自分はなんと愚かだったのか。自分の中には良い倉はなく、悪い倉しかなかったと気がついて悲しむ。そのとき、目の中に大きな梁があることに気がつく。

3) 真の兄弟を得る

このことを聖書では悔い改めと言います。では、悔い改めて何が変わるのか。悪い倉を良い倉に変えることは私たちにはできません。できると思っ
ているうちはまだ本当に気がついていないだけで
す。

でももし悔い改めることができたらどうなる
か。今日の聖書にあります。あなたはしっかりとし
た土台を据えることができたということになる。
しかし土台だけではどうにもならない。その上に
どうやって家を建てるのかと、心配するでしょ
う。心配いりません。神がその上に家を建ててく
ださる。土台がしっかりしていれば絶対に倒れませ
ん。これを救いと言います。私の中には悪い倉しか
ないと告白が、土台を据えることになります。悪い
倉しかない、結局何も見えていなかったのだと言
えた人が良い倉を持つことになり、良い人に変え
られる。それが神の救いの方法です。

最後にもうひとつ付け加えておきます。救いは個
人の心の中ではとどまりません。42節後半。「ま
ず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれ
ば、兄弟の目のちりがはっきり見えるようになっ
て、取り除くことができます。」

もし神の前に自分が弱い者であることを告白す
ることができたなら、あなたは兄弟を得ることが
できる、そう言っている。こんどはあなたが困っ
ている兄弟に寄り添って、兄弟が立ち直れる手助け
をすることができる。それがあなたの本当の兄弟
となる。そのとき、あなたは本当の友を得ること
になる。あなたにもたらされた神の救いの恵み
は、ほかの人にも影響を与えて世界に広がってい
く。それほどすばらしい恵みである。このように
語ってくださる主とともに、この一週間を歩んでま
いります。